

Salon

Vol.117 2018年11月 冬号



ホール3F 壁画 ポール・ギアマン作「クインテット」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 藤木大地
03 Phoenix Presents — 2019年度ティータイムコンサート
中谷政文 ピアノリサイタル
～エクレクティシズム～
06 Pick Up
07 Essay de say — 慣れない時差のお話 福田進一

カウンターテナー界に日本のスター現る！ 藤木大地さん

藤木大地の勢いが止まらない。2017年4月、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に東洋人初のカウンターテナーとして鮮烈にデビュー、2018年はCD「愛のよるこびは」でメジャー・レーベルへのデビューを果たし、そのタイトル曲が村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」の主題歌に抜擢された。一人のスターの存在が、そのジャンルの発展を急速に押し進めることがあるが、藤木の活躍は日本における「カウンターテナー」の地位を大きく引き上げたといえよう。男性が裏声を使った技術によって、女性のアルトからソプラノまでの音域をカバーするのがカウンターテナー。藤木のレパートリーは、バロックから現代まで、宗教曲、オペラ、ミュージカル、日本の歌と幅広いが、どの国のどの言語の曲をうたっても、「この歌を届けたい」という彼の執念にも近い強い思いが舞台から刺さるように伝わってくる。今回のリサイタルにこめられたメッセージを聞いた。

(取材・文:新井鷗子/構成作家)

「藤木大地 カウンターテナーリサイタル『日本のうたと、その時代 in OSAKA』」は、2019年2月8日(金)午後2時開演。ピアノは松本和将。茶葉付で、入場料3,500円(指定席)、友の会3,150円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

マルティーニ:愛のよるこびは

R・シュトラウス:4つの歌より 第1曲

「憩え、わが魂」作品27-1

クイルター:3つのシェイクスピア歌曲より

第3曲「吹けよ、吹け、冬の風」作品6-3

岡野貞一:春が来た

中田 章:早春賦

山田耕筰:野薔薇

福井文彦:かんびょう

團 伊玖磨:花の街

ブリテン:夏のなごりのバラ

中田喜直:さくら横ちょう

高田三郎:くちなし

バーンスタイン:とってもきれいな

武満 徹:死んだ男の残したものは

林 光:四つの夕暮れの歌より

第4曲「死者の迎える夜のために」

小林秀雄:落葉松

シェーンベルク:ミュージカル

「レ・ミゼラブル」より「夢やぶれて」

西村 朗:木立をめぐる不思議(2015)

*藤木大地委嘱再演

増田真結、清水慶彦:山頭火による挽歌

《白い函》(2015)*藤木大地委嘱再演

加藤昌則:新作歌曲集より1曲を

世界初演(2018-19)*藤木大地委嘱

(予定)

藤木大地(ふじぎ・だいち/カウンターテナー)

2017年4月、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に鮮烈にデビュー。ライマン『メディア』ヘロルド役での殿堂デビューは、日本人、そして東洋人のカウンターテナーとしても史上初の快挙で、現地メディアから絶賛されるとともに、日本国内でも大きなニュースとなる。2012年国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールで、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年ポロニャ歌劇場でグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパデビュー。国内では、NHKニューイヤーパーティコンサートへの5年連続出演をはじめ、主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。また、村上春樹氏原作の映画「ハナレイ・ベイ」の主題歌(2018年10月公開)、同時にメジャーデビュー・アルバム「愛のよるこびは」(ワーナーミュージック・ジャパン)がリリース。バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活動を展開する、日本で最も注目される国際的なアーティストのひとりである。

歌の言葉を伝えることを 第一に考えています。

今回のリサイタルは「日本のうたと、その時代 in OSAKA」と題されていますが、プログラムの構成について教えてください。

プログラムを考える時は、2月8日の午後の約2時間、お客様とどのような時間を過ごそうか、その時そこにいらっしゃるお客様のことを想定しながら組み立てます。コンサートが始まってから終わるまでの感情の移り変わりを演奏者とお客様が共有できるように、「一続きのストーリー」が感じられるプログラムを作るようにしています。

今回の「日本のうたと、その時代」というタイトルには、日本の歌のリサイタルという基本的な流れの中に、同時代の外国の歌を入れるというコンセプトがあります。明治時代に西洋音楽が輸入されて、「西洋風の日本のうた」という日本独自のジャンルができました。その時代の外国の音楽にも目を向け、同じ頃にヨーロッパと日本で作られた曲を並べて聴いてみて、違いや共通するものを見つけて楽しんでいただけたらと思っています。タイトルに「in OSAKA」とわざわざ銘打っているのは、大阪で初お披露目となる曲やリサイタルで初めて歌う曲などを多く含んでいるからです。

プログラムの前半は、ちょうど立春を過ぎた季節ですので春や花を連想させる歌を選びました。さくら、バラ、くちなしなど題名に華やかな「文字」が入っているということも選曲のポイントの一つです。観客の皆さんは歌を聴く前にまずプログラムを文字として目で読みますからね。

最初の「愛のよこびは」(※)は、最新アルバムタイトル曲でもあり、関西では初披露になります。そして第3曲と第4曲の間には大きなギャップを作りました。イギリスの作曲家キルターの「吹けよ、吹け、冬の風」と、岡野貞一の「春が来た」は、同じ時代の曲なのに音楽の雰囲気がズルッとずっけるほど違います。ここで大阪のお客様はきっと、「なんでやねん」とツツコミを入れてくれるはずですよ。(笑)

プログラムの後半には、藤木さんの主要レパートリーである武満徹の「死んだ男の残したものは」が入っています。

この曲も、有名だから取り上げたのではなく、コンサートのストーリーの流れに合うものとして

入れました。プログラムの後半は、反戦や平和がテーマです。武満の曲と同じ1960年代に作曲された、アメリカのバーンスタインの「とってもきれいい」は、“みんなとってもきれいなのに戦争で死ななくちゃならないんだって。何故？と先生に聞いたら、平和のためだから、というけど、あたしにはわからない”という歌詞です。大戦から50年以上経っても世界は何も変わっていないと人間はちっとも成長していない。そういうことを普段は考えませんが、コンサートでこの歌を聴く時だけでも戦争について想う時間になればいいなと思います。

また、ミュージカル『レ・ミゼラブル』の「夢やぶれて」は、年代をみると日本の作曲家・小林秀雄と西村朗さんの間に生まれた音楽です。クラシックコンサートだからクラシック音楽だけ演奏するという暗黙の慣習がありますが、どの曲も歴史の中で生まれた音楽であって、僕はジャンルではなく時代という視点から音楽をとらえたいという気持ちがあります。西村朗さんの作品「木立をめぐる不思議」は、僕が2015年に委嘱し初演したものです。西村さんは大阪のご出身で、今回がこの曲の大阪での初演になります。

現代の日本の作曲家の作品を積極的に紹介されていますね。

同時代の作曲家に新作を委嘱するという行為を、「現代音楽の活動」とは受け取ってほしくありません。それはモーツァルトやシューマンが同時代の演奏家のために作曲していたのと同じことで、生きているアーティスト同士が新しい芸術を創造するという当たり前の行為なんです。だから作曲家には、何度も再演したくなる曲を作ってほしい、と頼んでいます。プログラムの最後は、大人気の作曲家で友人の加藤昌則さんに「祈り」をテーマにした歌曲集を現在書いてもらっている中から、1曲を世界初演します。

藤木さんの世界的な活躍が、日本での「カウンターテナー」の認知度を一気に高めたように思えるのですがいかがですか。

2011年にカウンターテナーに転向すると決めた当時は、カウンターテナーになったところで日本で仕事があるのだろうか、と不安でしたが、

2012年に日本音楽コンクールでカウンターテナーとして初優勝できたことが大きかったです。カウンターテナーという言葉が徐々に認知され、コンサートに出演のお声がかかるようになっていきました。そして2017年のウィーン国立歌劇場デビューのニュースが、いろいろなメディアで流れ、クラシック・ファン以外の方々にも知ってもらったという幸運に恵まれました。

しかし「知る」という行動と「興味を持つ」という行動の間にはワンステップあって、知ることから興味を持ってもらうところまでどうやって持っていくかが大変です。さらにチケットを買ってコンサートに来てもらうまでには様々な努力や工夫が必要です。これからは、クラシック音楽以外のマーケットにどう訴求できるかが問われて来ると思います。

お客様へのメッセージをお願いします。

ある1つの曲を皆さんの前で歌うにあたり、僕は、テキスト(歌詞)が自分の心に「すとんと落ちた」という感覚にたどり着くまで歌い込みます。楽譜を覚えているという感覚が消えて、テキストが体の一部になったという境地になるまで何度も歌います。しかし感情移入し過ぎてはいけません。あくまでも歌手は、作曲家の思いをお客様に伝える「語り部」です。僕は、いい声を出すことよりも、言葉を伝えることを第一義に考えています。英語やドイツ語やイタリア語を完全に自分の言語として習得しているのも、歌のテキストをよく理解し、お客様に伝えるためです。

カウンターテナーに転向して7年余、心と体のバランスが取れない時期もありましたが、今は好不調なく安定したコンディションの上で様々な表現方法を試したりすることができ、歌うことがとても楽しいです。共演するピアニスト松本和将さんは学生時代からの付き合いで、ソリストとして素晴らしい方ですからピアノの美しさにも是非ご注目ください。このリサイタルは1年前に発売開始になりましたが、ちょうど1年前に買ったという方がSNSにチケットの写真をアップして下さったんです。大阪のノリの良いお客様のためにとっておきのプログラムを用意しましたので、ぜひいらしてください。

※ 映画「ハナレイ・ベイ」主題歌。



11月23日(金・祝)
10:00 受付開始
ザフェニックスホール
友の会優先予約

11月26日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

11月27日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは11月28日(水)10:00から!

2019年度 ティータイムコンサートシリーズ [134]~[140]



フェニックスならではの、スペシャル・マチネ。通し券なら、1回約2,800円

金曜の午後、上質な音楽をおいしいお菓子・お飲み物と共にお届けするティータイムコンサート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。2019年度は7公演。室内楽の様々な形態をバラエティ豊かにラインナップしました。ウィーン・フィル首席とベルリン・フィル首席管楽器奏者、フレンチピアニストの巨匠、バンドネオンの俊英など、自信のアーティストがずらりと並ぶフェニックスだけの「スペシャル・マチネ」をお楽しみ下さい。

いずれも金曜日 14:00開演 指定席 お茶・お菓子つき

[7公演]合計額 ¥25,000

年間通し券

一般価格 ¥24,000

友の会価格 ¥20,000
(お一人様2席まで)



※1公演毎でのご購入も可能です。

134 ウィーン・フィル首席ファゴット奏者。
世界一流オーケストラが認めたファゴットのミューズ。

ソフィー・デルヴォー
ファゴットリサイタル

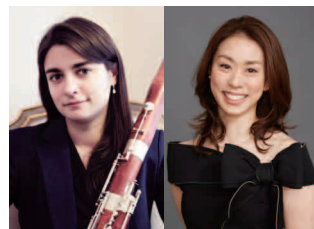
2019年6月14日(金)

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

●出演●
ソフィー・デルヴォー(ファゴット)、沢木良子(ピアノ)

●曲目●
ベートーヴェン:チェロソナタ 第2番 ト短調 作品5-2
サン=サーンス:ファゴットソナタ 作品168 ほか(予定)

21歳でベルリン・フィルに入団、24歳でウィーン・フィルの首席ファゴット奏者に就任するなど、規格外の実力を持ったファゴット奏者がザ・フェニックスホールに初登場。プログラムは、サン=サーンスの最後のソナタ作品で、ファゴットの重要なレパートリーであるファゴットソナタ、そしてベートーヴェンのチェロソナタを中心にお届けします。ファゴットはチェロとほぼ同等の音域の楽器ですが、弦楽器とは一味違った魅力に溢れています。世界最高峰のファゴット演奏をお楽しみください。



135 デビュー50周年を迎えるベテランが辿り着いた円熟のショパン。

寺田悦子 ピアノリサイタル
〜オール・ショパン プログラム〜

2019年7月19日(金)

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

●出演●寺田悦子(ピアノ)

●曲目●
ショパン:バラード 第1番 ト短調 作品23
ノクターン 第13番 八短調 作品48-1
ピアノソナタ 第3番 口短調 作品58
ほか(予定)



デビュー50周年を迎え、精力的に演奏活動を行う寺田悦子さんによるオール・ショパンプログラム。さらに今回は、数あるショパン作品の中でも名曲中の名曲をお届けいたします。映画やドラマ、最近ではフィギュアスケートでも使用され話題となったバラード第1番を始め、21曲あるノクターンの中で人気の高い第13番、そしてショパン円熟期屈指の傑作ピアノソナタ第3番と、これ以上ないほどの豪華プログラム。じっくりとショパンの世界を堪能してください。

136 ベルリン・フィル首席奏者が奏でるフランス・ドイツのフルート名曲集。

マチュー・デュフォー
フルートリサイタル

2019年8月2日(金)

一般¥4,000(友の会価格¥3,600)
学生¥1,000(限定数)

●出演●
マチュー・デュフォー(フルート)、浦壁信二(ピアノ)

●曲目●プーランク:フルートソナタ FP164
シューベルト:「しほめる花」の主題による序奏と変奏曲 作品160 D802
ライネッケ:フルートソナタ「ウンディーネ」作品167 ほか(予定)



マチュー・デュフォーさんは、シカゴ響の首席奏者を経て、現在はベルリン・フィルの首席奏者を務める世界最高峰のフルート奏者。今回のプログラムでは、プーランクの傑作ソナタ、そしてシューベルト自身が編曲した有名歌曲の変奏曲を軸に、フランスとドイツのフルート名曲集をお届けします。フルートの好きな方にはもちろんの事ですが、これまでフルートにあまり興味をお持ちでなかった方にもぜひ聴いて頂きたいコンサートです。フルートの柔らかく温かい音色を存分に堪能できる選曲となっています。是非、世界最高の音をその耳で楽しんでください。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00
11/23(金・祝)はディertime発売日のため特別営業

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申し付けください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

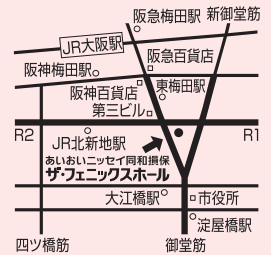
http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

- ・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいたから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

137 ロマン派から新ロマン主義音楽へ。ピアノトリオ現在形。

トリオ ソ・ラ

2019年11月22日(金)

一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000(限定数)

- 出演●
谷川かつら(ピアノ)、瀬川祥子(ヴァイオリン)、水谷川優子(チェロ)

- 曲目●
スーク:ピアノ三重奏のためのエレジー 作品23
ジェニファー・ヒグドン:ピアノ三重奏曲
吉松 隆:アトム・ハーツ・クラブ・トリオ 第1番 作品70d
シューベルト:ピアノ三重奏曲 第1番 変ロ長調 作品99 D898 (予定)

独自の企画でピアノトリオの新たな地平を切り開くトリオ ソ・ラ。今回も意欲的なプログラムを携えて登場します。注目すべきは現代の2作品。美しいハーモニーとメロディが折り重なっていくヒグドン作品、リズムカルで躍動感溢れる吉松作品、どちらも独創的で耳心地の良い作品です。現代音楽は難解であると敬遠されている方にこそ聴いて頂きたいです。プログラムの中心には王道シューベルトを据え、まさにロマン派から新しい時代を追い求めるような内容となっています。お楽しみに。



138 後期ロマン派から印象派へ。名手たちが奏でる激変の時代の名曲たち。

漆原朝子(ヴァイオリン)

& 今峰由香(ピアノ)
デュオリサイタル

2019年12月13日(金)

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)

- 出演●
漆原朝子(ヴァイオリン)、今峰由香(ピアノ)
- 曲目●
ラヴェル:ヴァイオリンソナタ 遺作
ドビュッシー:ヴァイオリンソナタ
ヤナーチェク:ヴァイオリンソナタ
ドヴォルザーク:
4つのロマンティックな小品 作品75
ブラームス:
ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 作品108 (予定)



©Naoya Yanaguchi studio Diva

東京藝術大学教授、ミュンヘン国立音楽大学教授の実力派二人が演奏するのは、滋味深いブラームス晩年の傑作ソナタをメインに、ドビュッシーの最後の作品、不思議な響きのするヤナーチェクのソナタなど、19世紀後半から20世紀前半にかけて作曲された作品たち。この時代はまさに激動の時代であり、ロマン主義の爛熟から世界大戦前夜にむけての頹廢が入り混じった混沌とした時代でした。そうした中だからこそ芸術は力強く新しく生まれ変わっていきます。時代の空気を感じながらヴィルトゥオーソたちの演奏をお楽しみください。

139 フランスの巨匠が奏でる極上のエレガンス。

ミシェル・ダルベルト

ピアノリサイタル

2020年2月7日(金)

一般¥4,500(友の会価格¥4,050)
学生¥1,500(限定数)

- 出演●ミシェル・ダルベルト(ピアノ)

- 曲目●
ベートーヴェン:ピアノソナタ 第8番 八短調「悲愴」作品13
リスト:3つの夜想曲「愛の夢」
ラヴェル:ソナチネ (ほか(予定))

フランスのエスプリを体現するような紳士であるミシェル・ダルベルトさんが奏でるピアノの音はまさにエレガンス。過去にNHKで放映された「スーパーピアノレッスン」の講師を務めていたため、その姿を記憶されている方も多いはず。上品で優雅でありながらも論理的に楽曲を分析する様子は、まさに彼の演奏スタイルそのものといっても過言ではないでしょう。今回はベートーヴェンの「悲愴」、リストの「愛の夢」など、誰もが知る有名曲を多数含んだプログラムとなっています。巨匠の奏でる名曲の数々をじっくりとお楽しみください。



©Caroline Doutré

140 バンドネオンの若き旗手が挑む新しきバッハの世界。

今井信子presents

三浦一馬(バンドネオン)

プレイズ・バッハ

2020年2月28日(金)

一般¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000(限定数)

- 出演●三浦一馬(バンドネオン)

- 曲目●J・S・バッハ(三浦一馬 編):シャコンヌ
ピアソラ(マルコーニ 編):アディオス・ノニーノ (ほか(予定))

今、のりに乗っているバンドネオン奏者三浦一馬さんがJ・S・バッハの作品を携えて颯爽と登場。バンドネオンといえばタンゴのイメージが強く、バッハとは遠いように思えますが、もともとドイツで生まれた楽器であり、パイプオルガンの代替楽器としても演奏されていたといわれています。つまりバッハとバンドネオンは非常に相性が良いのです。まさに原点回帰ともいえる今回のプログラムですが、タンゴ奏者である三浦さんならではの新しいバッハが聴けるはずです。ご期待ください。



©Shigetaka Imura

2019年5月18日(土)

中谷政文 ピアノリサイタル ～エクレクティシズム～

15:00開演 自由席

一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)

一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

※友の会割引は無制限。

※学生券は25歳以下の方対象。

出演 中谷政文(ピアノ)

曲目

ベルト:アリーナのために

ラフマニノフ:ピアノソナタ 第1番 二短調 作品28

フランク(パウアー編):前奏曲、フーガと変奏曲 作品18

グリンカ(バラキレフ編):ひばり

エネスク:ルーマニア狂詩曲 第1番 イ長調 作品11-1

ストラヴィンスキー(アゴスティ編):バレエ組曲「火の鳥」

音楽は主に旋律、リズム、和声の3要素により成り立っていますが、私はこの中でも特に和声の美しさに心を奪われます。和声の移り変わりに耳を澄ましていると、そこには、安らぎ、驚き、苦悩、期待、怒り、歓喜、絶望など、人間が人生の中で体験し得るありとあらゆる感情が混在しているのを感じることが出来ます。巷ではよくクラシック音楽=癒しという図式が取り沙汰されますが、単にそういった一側面だけではなく、たとえ数分間の曲の中にもそういった濃密な感情が入り交り、何か大きな物語を追体験しているような感覚にとらわれます。

今回演奏する作曲家は、各人とも固有の思想をもち、私たちに様々な物語を語り掛けてくれます。ラフマニノフではゲーテ「ファウスト」の戯曲を基にした文学的な世界を、フランクでは西洋の大聖堂で孤独に佇むオルガニストの姿を、エネスクでは狂乱的な民族の踊りを、そして最後のストラヴィンスキーではロシアの童話「火の鳥」より魔王との決闘から、勝利でカタルシスに浸る歓喜のシーンを表現いたします。たくさんの方にご来聴いただき、率直なご感想をお聞かせ願えればうれしく思います。



中谷政文(なかにに・まさふみ/ピアノ)

和歌山市生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を卒業。2008年より渡米し、インディアナ州立大学ジェイコブ音楽学部修士課程修了。その後マイアミ大学フロスト音楽学部博士課程に所属し、ティーチングアシスタントを務め、2017年に論文「The Effect of the Developing Variation Technique on Brahms' Early Piano Solo Works in the Form of Theme and Variations」に於いて博士号を取得し卒業。

第48回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部第1位、並びに野村賞受賞。第22回マルサラ市国際ピアノコンクールにおいてファイナリストディプロマを授与される。第8回ソフィア国際ピアノコンクール「アルペール・ルーセル」において第1位ならびにY.Boukoff 賞を受賞。第

27回ウィリアム・カペル国際ピアノコンクールにおいてThe Martha M.Boucher Memorial Prize 受賞。New Orleans Piano Instituteのピアノ協奏曲コンクールで第1位を受賞、ラフマニノフピアノ協奏曲第3番を New Orleans Civic Orchestraと共演。現在、Y.A.ミュージックアカデミー講師。これまでにピアノを小島時栄、出口美智子、中野慶理、田代慎之介、角野裕、大野真嗣、練木繁夫、サンティアゴ・ロドリゲス、高尾直子の各氏に師事。



夏の風物詩、クラシックギターの祭典 Osaka Guitar Summer 2018今年も盛会に終了しました

今年で9回目となるOsaka Guitar Summerが無事終了。チケットも完売し、まさに熱狂的な夏の祭典となりました。マエストロ福田進一さんは、ジュリアーニとテデスコのイタリアの古典と現代の大曲ソナタをプログラム。圧巻のパフォーマンスで聴衆を魅了しました。そしてゲストにはポーランドからクピンスキー・ギターデュオが初登場。ガーシュウィン「ラブソディ・イン・ブルー」やショパン「ワルツ」作品64-2など、お馴染みのピアノ曲をギターデュオに独自に編曲した独創性に溢れる演奏を聴かせてくれました。

マスタークラスにおいては、ソロに加えてデュオでの参加もあり、熱量の高いレッスンが繰り広げられました。どの受講生も将来有望でしたので、いずれプロ奏者となってザ・フェニックスホールで演奏してくれることを期待したいと思います。

そして2回目となるギターアンサンブルワークショップは15名が参加。今年はいよいよニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールが委嘱した林そよかさんの新曲「夏空スケッチ」の世界初演に取り組みました。3名の講師による指導の元、8回の全体練習を行い、見事世界初演を成功させました。

来年は節目となる10回目。ますます上昇するOsaka Guitar Summerにご期待ください。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演

ウィーン・フィル 第一コンサートマスター フォルクハルト・シュトイデ ヴァイオリン・リサイタル 2019

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2019年1月16日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,500(友の会価格¥4,950) ※友の会割引は前売のみ。

出演 フォルクハルト・シュトイデ(ヴァイオリン)、三輪 郁(ピアノ)
 曲目 モーツァルト: アダージョ ホ短調 K261、ロンド 八長調 K373
 ベートーヴェン: ヴァイオリンソナタ 第10番 ト長調 作品96
 ブラームス: ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78
 フリッツ・クライスラー傑作集~曲目は当日のお楽しみ!

2000年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の第1コンサートマスターを務め、ソロ活動でも注目のシュトイデによる音楽芸術を梅田で聴く夜!!



©広島交響楽協会

協賛
公演

松浦奈々 ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 全曲ツィクルス(全3回)

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

<第1回>2019年2月4日(月) <第2回>2019年4月22日(月) <第3回>2019年6月18日(火)

いずれも19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,500(友の会価格¥4,000) ※友の会割引は前売のみ。

3公演セット券 9,600円(前売のみ・限定数・友の会割引無し)

出演 松浦奈々(ヴァイオリン)、須関裕子(ピアノ)

曲目
 <第1回> ヴァイオリンソナタ 第1番 二長調 作品12-1、第2番 イ長調 作品12-2、第3番 変ホ長調 作品12-3、第5番 へ長調「スプリング」作品24
 <第2回> ヴァイオリンソナタ 第6番 イ長調 作品30-1、第7番 八短調 作品30-2、第8番 ト長調 作品30-3
 <第3回> ヴァイオリンソナタ 第4番 イ短調 作品23、第9番 イ長調「クロイツェル」作品47、第10番 ト長調 作品96

関西圏の最大拠点・梅田で展開する芸術音楽。日本センチュリー交響楽団コンサートマスターの松浦奈々が奏でるベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ全曲ツィクルス。

協賛
公演

トリオエリップス ピアノ三重奏

主催 トリオエリップスジャパンツアー2019

発売中

2019年2月23日(土) 14:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050)

学生前売・当日¥2,500 ※友の会割引は1会員2枚まで

出演 フィリップ・バルベラリア(ピアノ)
 シリル・バルトン(ヴァイオリン)
 グレゴリオ・ロビノ(チェロ)

曲目
 ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第1番 変ホ長調 作品1
 ドビュッシー: ピアノ三重奏曲 ト長調
 シューベルト: ピアノ三重奏曲 第1番 変ロ長調 作品99 D898

今年で2度目の来日公演を行うトリオエリップスは、現在フランス国立リール管弦楽団の首席ソリストであるチェロのグレゴリオ・ロビノとフランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団専属ヴァイオリニストであるシリル・バルトン、そしてピアニストであり指揮者のフィリップ・バルベラリアによって、パリ国立高等音楽院在籍中に結成されたピアノトリオです。今回はベートーヴェン、ドビュッシーそしてシューベルトまで彼らの素晴らしいテクニックと華麗なフランスのエスプリが一度に楽しめるプログラムです。お聴き逃しなく。

協賛
公演

関西弦楽四重奏団 ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲 全曲ツィクルス 第5回・第6回

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

<第5回>2019年3月18日(月) <第6回>2019年5月13日(月) 両日とも19:00開演 指定席

一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,150) ※友の会割引は前売のみ 第5・6回連続券¥6,000(限定数、友の会割引なし)

出演 関西弦楽四重奏団/ 林 七奈、田村安祐美(以上ヴァイオリン)、小峰航一(ヴィオラ)、上森祥平(チェロ)

曲目
 <第5回> ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 作品18-2、第13番 変ロ長調 作品130、「大フーガ」 変ロ長調 作品133
 <第6回> ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲 第16番 へ長調 作品135、第14番 嬰ハ短調 作品131

期待のベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲ツィクルス。第一線で活躍する俊英たちの強い情熱の発露が音楽界に新たな活力をもたらす! 2014年度 大阪文化祭賞 奨励賞、2015年度 咲くやこの花賞 受賞!

協力
公演

非破壊検査ニューイヤーコンサート2019 ローマ春のレスピーロ

主催 読売テレビ

発売中

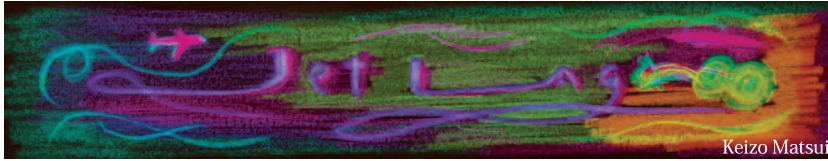
2019年1月10日(木) 19:00開演 指定席 S席(1階席) ¥8,000(友の会価格¥7,200) A席(2階席) ¥6,000(友の会価格¥5,400)

1階席は丸テーブルでワインを飲みながらお楽しみいただけます。2階席は開演前と休憩時にロビーでワインを楽しんでいただけます。

出演 今井俊輔(バリトン)、榛葉樹人(テノール)、エヴァ・エンリク(ソプラノ)、アヴォス・ピアノ・カルテット(ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)
 曲目 ブッチーニ: 歌劇「ラ・ボエーム」より「私が街を歩くと」
 歌劇「トゥーランドット」より「氷の様な姫君も」
 ヴェルディ: 歌劇「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」より「乾杯の歌」 ほか

慣れない時差のお話

— 福田進一



Keizo Matsui

クラシック・ギタリストを志して、生まれ故郷の大阪を離れてから40年が経った。数ある音楽の中で、このジャンルを選んだ結果、得なこと、損なこと、いろいろあるのだけれど、まあ皆さんが想像されるほど派手な世界でもなければ、特別モテるなんてこともない。

留学先のフランスで8年、そして帰国してからはずっと東京を拠点にして、相変わらず、旅の多い生活を送っている。「出勤しなくていいし、気楽で良いですねえ」「観光出来て羨ましいなあ」とか、よく言われるが、内情は大変厳しい職業であって、正直言って観光などはほど遠い旅の連続が続いている。

まあ、移動そのものに関して言えば、便利な世になって何の不満もない。演奏家として名を成せばそうなると最初からわかっていたことだし、最初は嫌いだった飛行機もいつしか怖くなくなり、なかなか目的地に着かない鉄道の旅も、そのうち時間の使い方を覚え、ゆったり車窓を眺めるのも好きになった。

世界中を巡り、異国の地の食や習慣を味わい、空気を吸ううちに、自分の人生がどんどん豊かになっていく。そんな思いを味わえるのは演奏家としての醍醐味だとさえ思う。

しかし、ひとつだけいつまで経っても慣れないことがある。時差である。

たいていの場合、演奏家は予定の演奏会の数日前に現地に着く。行き先によるが、そこでのスケジュールは時差を計算に入れておく。例えば、今年3月に行ったバルセロナなど、マイナス7時間の時差があるので、日本の夜のコンサートが昼の時間帯にズレるだけ。こちらから西のヨーロッパに行って弾く場合はマチネ公演だと思えば簡単なので、着いてすぐの演奏でも大丈夫。もちろん、これは機内で眠れば…の話だが。

ところが、その翌月にはかなり長期のアメリカツアーが控えていた。ツアー初日の公演は東のサンフランシスコなので日付変更線を越えてマイナス16時間。つまり日本の前日午前3時とか4時にステージに立つことになり、これはかなりキツイ。つまり、地球の自転に逆らって飛ぶと楽で、沿って飛んだら辛いということだ。そして、その辛い演奏会の翌日に次の演奏会場に移動ともなれば、演奏の後に

さらに辛いスーツケースの荷造りという別の仕事も待っている。

サンフランシスコ公演の後、夜遅いフライトでさらに東に4時間半ほど飛び、ナッシュビルに着く。中途半端な距離なので到着は早朝の5時。アメリカなので、国内でも時差がある。ここで2時間縮まり、マイナス14時間となるのだが、もうこの時点で計算の苦手な人は何で時差が縮まるのかわからなくなっておられると思う。まあザックリ昼夜逆転の世界に飛び込む。この時間帯でミルウォーキー、シカゴと演奏し、再び西海岸へ。ロス、サンディエゴを経て帰国したが、この間もスーツケースと闘い、その合間を縫って練習し、美味しい時もあれば不味い時もある食事をして、舞台上で弾きと、かなり大変なのである。そして帰国後は「新たな時差ボケ」と闘わねばならない。自律神経ボロボロで頑張るしかないのだ。

さて、ギターという楽器は、他の楽器とは異なり、赤道の向こう側へ我々を誘ってくれる。実際、かなりキャリアのあるヴァイオリニストやピアニストでも、季節も逆転する南半球を知らない人は多く、羨ましがられる。逆に考えれば、クラシック音楽の殆どが、地球という星の北半球で聴かれていることがわかる。ギターを選んだおかげでブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、コロンビアなどを旅できるのは儲けものだ。

特に、ブラジルへの旅はほぼ1日半から2日近くかかる。すでに4度ほど往復しているが、かの地ではウルグアイの巨匠エドゥアルド・フェルナンデスとの共演が多い。もう20年ほど昔だが、ある真冬、暑いリオでの演奏会が終わり、コパカバーナの海岸でカイピリーニャなどというトロピカルなカクテルを飲みながら午前3時頃まで打ち上がったのは今も懐かしい思い出。さて、人はこれを朝酒と言うのだろうか？ 昼酒、いややはり夜酒なのだろうか…

地球の真反対側で時差に悩まされながらも、こんなことを言っているのだから、やはり羨ましがられる気楽な職業なのかもしれない。

来夏、第10回大阪ギターサマーは、そのフェルナンデスをゲストに迎える予定だ。今から僕にとっての「時差なし」の本番と、その後の打ち上げが楽しみである。

福田進一(ふくだ・しんいち)/ギター奏者

大阪生まれ。パリ・エコール・ノルマル音楽院を首席で卒業。1981年パリ国際ギターコンクールでグランプリ優勝、さらに内外で輝かしい賞歴を重ねた。以後35年、ソロ・リサイタル、主要オーケストラとの協奏曲、超一流ソリストとの共演を続け、日本を代表するギタリストとして国際的な評価を獲得。ディスコグラフィはすでに90枚を超える。2007年度外務大臣表彰。2011年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。現在、上海音楽院、大阪音楽大学、広島エリザベト音楽大学、昭和音楽大学の客員教授を務める。



©Takanori Ishii

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2018年11月
 発行 あいおいニッセイ同和損保
 ザ・フェニックスホール
 編集 諸藤 修一
 デザイン 松井桂三有限公司

